

2024

「建築の未来」

JIA 建築家大会 2024 別府

11/28 thu・29 fri・30 sat

大会概要

大会名称 JIA 建築家大会 2024 別府
大会テーマ 建築の未来
大会日程 2024年11月28日(木)～30日(土)
開催会場 別府国際コンベンションセンター「ビーコンプラザ」
 アートプラザ
イベント 「注目の若手建築家による建築討論」「偉大な先輩建築家に学ぶ 磯崎新とは」「だれも知らない建築のはなし」「熊本から考える災害と未来」「大分から考える木造と未来」「メインシンポジウム 講演会〈Open-ended Architecture〉×「建築の未来」クロストーク」、大会式典、ウェルカムパーティー、レセプションパーティー、国際委員会シンポジウム、まちづくりワークショップ、エクスカーショント、1～3、あかりコンペ、別府温泉ナイト I・II、名誉会員の集い、支部長 OB 会、法人協力会サミット、各種展示等
参加人数 680 名(登録者)

主催 公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
後援 国土交通省、大分県、別府市、(一社) 日本建築学会、(公社) 日本建築士会連合会、(一社) 日本建築士事務所協会連合会、(一社) 日本建設業連合会、(公社) 日本建築積算協会九州支部、(一社) 日本建築学会九州支部、(一社) 日本建築構造技術者協会九州支部、(一社) 日本コンストラクション・マネジメント協会九州支部、(公社) 大分県建築士会、(一社) 大分県建築士事務所協会、(一社) 大分県設備設計事務所協会、(一社) 日本建築学会九州支部大分支所、九州旅客鉄道株、大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、(株) エム大分、(株) 大分建設新聞社
協力 アートプラザ
協賛企業 192 社



大会 HP
報告ページ

JIA 会長あいさつ

次の世代に繋ぐ建築の未来を
議論し、学んだ 3 日間

公益社団法人日本建築家協会会長 佐藤尚巳

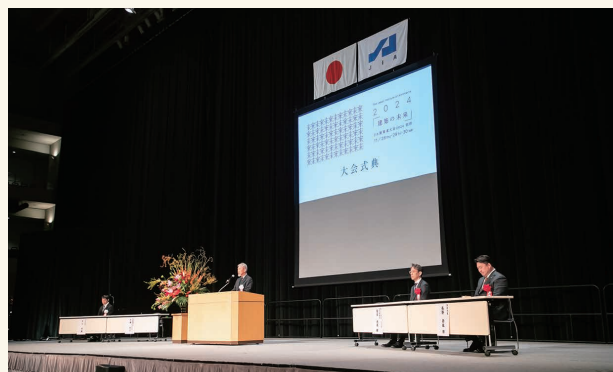
昨年 11 月末に JIA 建築家大会 2024 別府が開催された。例年を上回る 680 余人の参加登録があった。日本の建築界をリードした磯崎新氏の生誕地であり、氏の作品が数多く現存する大分と別府の温泉地での開催が多く参加者の関心を引いた。

テーマは「建築の未来」。建築界は近年さまざまな条件が複合的に絡み合い、解くべき課題が多岐にわたる厳しい環境にさらされている。CO₂削減と同時に地震や洪水等の自然災害の多発と狂暴化に備えて建築は安全性と安心感を担保しなければならない。そんな厳しい状況においても人間にとって優しく快適で感動を生む活動空間、交流空間、業務空間、賑わい空間を産み出し、提供するのが我々建築家の使命であり、生きがいでもある。そんな次の世代に繋ぐ建築の未来をいかに創造するか、改善するか、展開できるか、議論し、学んだ 3 日間であった。

毎年継続して行ってきた JIA マンスという大会のプレイベ

ントも、一過性の議論ではなく継続性を持ち深みのある議論に繋がるので、大変好評をいただいている。特に若手建築家 12 人による討論会は、全国各地で悩み苦しんでいる若手の情報交換、交流の場として大変有効に機能している。

JIA 会員の平均年齢が約 68 歳と高齢化が進んでいる中で、未来を切り開く「頼りになる若手建築家」の活躍の場が広がるように手助けできる「頼りになる JIA」とならなければならない。



支部長あいさつ

14年ぶりの大会を盛況に終えて

九州支部支部長 佐々木寿久

皆様ご多忙中にもかかわらず、建築家大会2024別府に多数ご参加いただき誠にありがとうございました。また御協賛いただきました個人・団体・法人の皆様、大分県・別府市の皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。皆様のおかげをもちまして、盛況のうちに幕を閉じることができましたこと、九州支部一同心より御礼申し上げます。

また、大会開催にあたりご教授いただきました沖縄支部・東海支部の皆様には厚く感謝申し上げます。

九州支部では14年ぶりの開催でありました。本大会では、「建築の未来」をテーマに、基調講演・シンポジウム・エキスカッションなど、多岐にわたるプログラムを実施いたしまし

た。皆様には、熱心にご聴講、ご参加いただき、活発な議論が交わされておりましたこと大変嬉しく存じます。今後の建築界の発展に少しでもお役に立てれば幸いです。

ウェルカムパーティー・レセプションパーティーでは、参加者の皆様同士の交流も深めていただけたかと存じます。さまざまな建築の分野でご活躍されている皆様一堂に会し、情報交換や親睦を深める場となりましたことは、本大会の大きな成果の1つと考えております。

別府市という特別な温泉の力も借りました今回の大会が、皆様にとって有意義な時間となりましたなら幸いです。また一度別府市をはじめとする九州を訪れていただけたらと思います。今後も建築界の発展に貢献できるようJIA九州支部一同頑張つてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



大会委員長あいさつ

未来に向けた新たな糧となる大会

大会委員長 松山将勝

JIA建築家大会2024別府には、国内外から多くの方々にご参集いただきまして、九州支部一同心から御礼申し上げます。

歴史と温泉文化が息づく別府の地で「建築の未来」というテーマのもと、大会プログラムや交流会、エキスカッションを通して多くの皆さまと共に建築の未来を語り合い議論を深め、新たな視座を共有する貴重な場となりましたことを改めて深く感謝申し上げます。

「建築の未来」を語ることは、私たちの社会が直面する課題や可能性を見つめることにほかなりません。自然災害や気候変動、人口減少や都市と地方の関係性、さらにはデジタル技術の進展など、私たちが取り組むべき課題は複雑かつ多岐

にわたります。そうした状況下で建築の役割も、単なる「空間を創る」行為から、人間社会や地球環境と深く関わる「価値を生む」役割へと変容しています。

私たち建築家は、この変化をいかに捉え、どのように応答し、未来を切り拓いていくべきか。本大会を通して、JIA会員の多様な価値観や経験を共有しながら皆さまと交わした議論は、未来に向けた新たな糧となるかけがえのない時間であり、今後の建築界にとっても重要な示唆をもたらす大会になったのではないかと存じます。

別府の地で生まれた新たなネットワークや知見が、これからの建築の発展や地域づくりに寄与することを心から願い、次回の千葉大会で再びお目にかかる日を楽しみにしております。



大会実行委員長あいさつ

持続可能な建築家大会に

大会実行委員長 川津悠嗣

2024.11.28～30に開催しました「JIA建築家大会2024別府」には、遠路よりJIA会員の皆様においでいただき、誠にありがとうございました。JIA会員、一般・学生を含み約680名の皆様にご参加いただきました。九州支部一同、心よりお礼を申し上げます。

今回の大会は当支部が担当しますのは14年ぶりでしたので、2023年6月より準備を開始し、3週に1回の実行委員会では27回を数えるまでになりました。「建築の未来」というテーマをもとに、現在我々が共通に抱えているさまざまな問題を議論し考える機会を提供したい、という構想を広げ構築していく作業は楽しくも胃の痛くなる日々でした。この長い準備期間を九州支部、とりわけ実行委員会の仲間たちの支えによって乗り切ることができました。

今回の大会の裏テーマは、持続可能な建築家大会を目指す、

というものでした。費用の掛かる大会の運営は支部にとっては大きな負担であり、コンパクトで身の丈に合った、寄付金集めに奔走しなくて済む大会をめざしました。本部の催しと支部による企画以外は大会期間中のプログラムとしない、できるだけ別府の街を楽しんでいただきたい、デジタル化を図りパンフレット等の印刷物やお土産的なものを減らす、などいくつかの点では初心を貫くことができました。しかしコンパクトに収めることは、たくさんの方にご参加いただきたいという思いと相反し、紆余曲折の末に今までと同様にそこそこお金のかかる大会となってしまったことは大いに反省する点です。

オンラインでのネットワークが広がった今日こそ、顔を突き合わせて議論することの意義は増してくると思われれます。これからも形を変えながらも全国大会が続いていきますことを期待しております。

また次の大会でお会いしましょう。



シンポジウム 1 JIA 全国 10 支部合同企画「注目の若手建築家による建築討論」

日時：11月28日(木) 13:30～16:30

会場：ピーコンプラザ 1F 中会議室

〈参加者〉

谷紀明氏(タニアトリエ級建築士事務所：四国支部推薦)、矢橋徹氏(矢橋徹建築設計事務所：九州支部推薦)

工藤浩平氏(工藤浩平建築設計事務所：関東甲信越支部推薦)、岡佑亮氏(Chidori studio：北陸支部推薦)

中西正佳氏(中西正佳建築設計事務所：近畿支部推薦)、蟻塚学氏(蟻塚学建築設計事務所：東北支部推薦)

和田優輝氏(和田デザイン事務所：中国支部推薦)、御手洗龍氏(御手洗龍建築設計事務所：関東甲信越支部推薦)

吉田夏雄氏(吉田夏雄建築設計事務所：東海支部推薦)、光浦高史氏(DABURA.m：九州支部推薦)

米花智紀氏(米花建築製作所：北海道支部推薦)、仲本昌司氏(ADeR：沖縄支部推薦)

モデレーター：畑友洋氏(畑友洋建築設計事務所)

塩塚隆生氏(塩塚隆生アトリエ)

木村吉成氏(木村松本建築設計事務所)

司会進行：浅井裕雄氏(裕建築計画／東海支部長)

2023年度よりJIA全国10支部合同企画としてスタートした「注目の若手建築家による建築討論」は、JIA 建築家大会2024 別府で2回目の開催を迎えました。3名のモデレーターを迎え、10月のプレ企画「JIA マンス」において全3回実施し、11月28日の本大会では対面形式のシンポジウムが開催されました。

今回は、昨年度JIA九州支部にて創設された「九州建築新人賞」の受賞者2名も登壇者に加わり、合計12名の若手建築家が参加。それぞれの地域で活動する彼らが、建築と向き合いながら自身の建築家像を確立しようと奮闘する姿は、時に孤独との闘いでもあるかもしれません。しかし、同じ志を持つ若手建築家たちが、各地域における建築創造の苦悩やプロセスを語り合うことで、新たな未来のビジョンが見えてくるはずです。

このシンポジウムの目的は、全国の同じ志を持つ建築家のつながりができ、同じ時代を生きる仲間ができる喜び。そうした場をつくり全国の建築家同士がつながる場をつくることです。天井の高い広々とした会場に12名の登壇者が囲い集い、それぞれの建築観や思想、実作を通して意見を交わす中で、活発な議論が展開されました。

若手建築家による未来を見据えた創作活動のプレゼンテーションでは、これからの時代を切り開くアイデアや手法が展開され、これからの建築への大きな提言であったと思います。また、建築と地域社会との関わりについても、各地域の多様な視点から意見が交わされ、地域に根差した建築のあり方について考察が深まりました。

会場には50名を超える聴講者が集まり、討論の内容に耳を傾けました。質疑応答の時間には、若手建築家の視点の質問や今後の展望について意見が寄せられ、司会、モデレーターを中心に登壇者・聴講者が一体となって意見が交換されました。「建築の未来」や「JIAの未来像」について考える貴重な機会となりました。



会場の様子

●若手建築家12名



谷紀明氏



矢橋徹氏



工藤浩平氏



岡佑亮氏



中西正佳氏



蟻塚学氏



和田優輝氏



御手洗龍氏



吉田夏雄氏



光浦高史氏

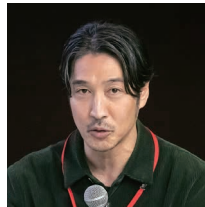


米花智紀氏



仲本昌司氏

●モデレーター



畑友洋氏



塩塚隆生氏



木村吉成氏

●司会



浅井裕雄氏



全員で記念撮影

シンポジウム 2 建築の未来 I 「偉大な先輩建築家に学ぶⅡ 磯崎新とは」 JIA-KIT 建築アーカイブス連携企画

日時：11月28日(木) 13:00～15:20

会場：アートプラザ (旧大分県立大分図書館) 研修室

〈登壇者〉

菅 章氏 (前大分市美術館館長) 西岡 弘氏 (元磯崎新アトリエ所員)

総括：仙田 満氏 (NPO 建築文化継承機構理事)

シンポジウム2は、JIAとNPO建築文化継承機構との共催で、大分市内の「アートプラザ」で行われました。アートプラザは、1966年に竣工した磯崎氏の作品であり、現在は、登録有形文化財に指定されています。

シンポジウムは、登壇者に菅章氏 (前大分市美術館館長)、西岡弘氏 (元磯崎新アトリエ所員) 両氏を迎え行われました。当初、メイン会場のビーコンプラザからも遠いため、来場者が心配されたが、会場の定員である70名が参加し、盛況でした。

最初に西岡氏が当時の事務所での磯崎氏の立ち振る舞いや、仕事に対しての向き合い方、現場での話をわかりやすく話されたので、参加者の方々と興味深く聞かれていました。

菅氏は、磯崎新の背景 (瓜生島、終戦時の廃墟など)、資質 (アー



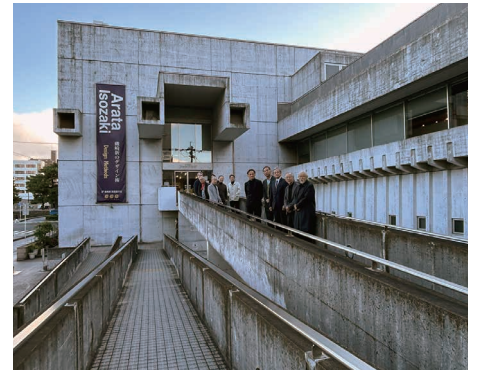
シンポジウムの様子

ティスト、エンジニア、思想家、批評家)、時代 (安保と前衛。高度成長と失速、バブルとポストモダン)、成果 (建築家の概念を変えた、文化としての建築、芸術と建築の関係性、世代間の交流) を我々建築家と違った視点で捉えられていて、新鮮でした。

磯崎氏について、彼は、建築家と同時に多様な顔を持った多面体の人であり、エニグマ (謎の人) であり、建築外的思想を持っていて、文化表象の手法を用い、建築の解体と再編を試みた建築家であるとも話されました。

これらは、著書や作品でしか知らなかった磯崎氏を再認識するとともに、現在の我々建築家に、あらためて偉大な先輩建築家であると考えさせられたシンポジウムでした。

最後に、沖縄からの来場者の方から磯崎氏の沖縄移住の話なども聞くこともでき、有意義な時間を共有できました。(田中康裕)



アートプラザの前で

シンポジウム 3 建築の未来Ⅱ 「だれも知らない建築のはなし」

日時：11月28日(木) 13:30～15:30

会場：ビーコンプラザB1F小会議室2・3

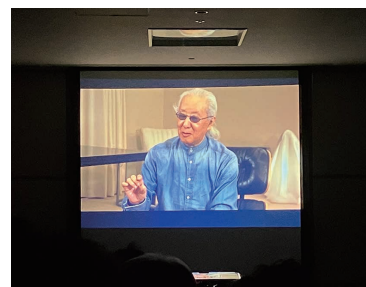
〈ゲスト〉

石山友美氏 (映画監督／秋田公立美術大学准教授)

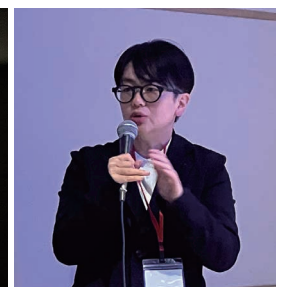
今回のシンポジウム3では、映画監督の石山友美氏をお招きし、話題のドキュメンタリー映画「だれも知らない建築のはなし」の上映会と、石山氏ご自身による解説を行いました。

映画は、磯崎新氏がコミッショナーを務め、世界の建築家が集結した会議の様子を克明に描き出し、1980年代から2000年代にかけての日本の建築界の激動を映し出していました。特に、安藤忠雄氏や伊東豊雄氏など、現代建築界を代表する建築家たちの若き日の姿は、参加者の皆さまに大きな感動を与えたことと思います。

映画上映後には、石山氏より、映画制作の背景や、各建築家の個性、そして日本の経済状況が建築に与えた影響など、貴重な解説がありました。発注者と建築家、そして日本の経済が複雑に絡



磯崎新氏のシーン



石山友美氏



会場の様子

み合いながら、建築がどのように創られていくのか、その過程を深く掘り下げた内容に、参加者の皆さまは熱心に耳を傾けていました。

会場は、立ち見が出るほどの盛況ぶりで、多くの方々にご来場いただきました。上映後には特別に、旧都城市民会館の解体前の貴重な映像を最後に見せていただき、その建築の力強さと映像の美しさには、来場者の皆さまの心に深く響いた様子でした。

今回のシンポジウムを通じて、参加者が、建築が単なる建物ではなく、時代や社会、そして人々の想いが凝縮されたものであることを改めて認識されたことと思います。また、現代建築の礎を築いた建築家たちの情熱や苦労に触れ、建築に対する理解を深めていただけたのではないのでしょうか。

今後も、このような機会を通じて、建築の魅力を多くの方に伝えていきたいと考えております。(村上明生)

シンポジウム4 「熊本から考える災害と未来」

日時：11月29日(金) 10:00～12:00

会場：ビーコンプラザ1F 中会議室

シンポジウム4では、登壇者の方からそれぞれ、以下の発言がありました。

■「創造的復興とは何か」原田展幸氏

「創造的復興」という言葉は、阪神・淡路大震災から使われ始め、熊本地震では復興政策の最上位概念とされている。「復旧」と比較される。

熊本地震を経験し、被災地の建築家としてできることを考え、実践してきた。建築家が身の丈でできることを実行する。

■「仮設住宅とみんなの家」末廣香織氏

東日本大震災の復興のためにスタートした「みんなの家」プロジェクトを経験した。熊本地震の時に、「熊本KASEIプロジェクト」を立ち上げる。「みんなの家」を補完する周辺環境や家具の整備を行う。被災地支援とKASEI活動を通じて、多くの学びがあった。

■「KASEIプロジェクト」友廣佳太氏、塩谷葵氏

プロジェクトのコンセプトは、仮設住宅団地の良好な住環境とコミュニティを築くことに「加勢」すること。

活動方法は、家具の製作などの「ものづくり」とイベント企画支援などの「ことづくり」の両面の環境改善支援を同時に行っていくこと。

きっかけは熊本地震だったが、その後の令和2年7月豪雨後は、KASEI.r2としてコロナ禍での支援活動を行う。

〈登壇者〉

末廣香織氏(九州大学大学院教授 人間環境学研究院 都市・建築学部門計画環境系) + 大学生

柴田真秀氏(JIA 熊本地域会・保存再生会議委員)

モデレーター：原田展幸(JIA 熊本地域会・JIA 災害対策会議前委員)

■「文化財ドクター派遣事業」柴田真秀氏

基本的には文化財の技術的支援を行うが、行政の支援があり、無登録の建物の支援も可能となる。安易な公費解体の防止となっている。

1次調査(外観調査)、2次調査(内部調査+ヒアリング)、3次調査(実施設計から見積まで)の流れの中でさまざまな難しい面があるが、歴史的建物を守る可能性がある。

■クロストーク

熊本の特殊性について：アートポリスからの積み重ね、行政との連携がある、資金の問題。

災害への事前準備について：ネットワークの重要性、経験がものをいう。

JIAとして：団体の存在意義は、合体ロボットのcockピットでいいのではないかな。(安東崇夫)



集合写真



クロストーク

シンポジウム5 「大分から考える木造と未来」

日時：11月29日(金) 9:30～12:00

会場：ビーコンプラザ3F 国際会議室

全国有数の林産県である大分県は、豊富で充実した森林資源を積極的に活用し、林業・木材産業の活性化と健全な森林の維持増進を図ることを目的に、地域の木材を使用した住宅・非住宅の木造建築を推進するとともに、それらを設計する建築家の育成にも取り組んでいます。シンポジウム5では、はじめに建築の木造・木質化の現在の立ち位置を確認し、それから環境・材料・構造等の各視点から多角的に木造について議論を行いました。

平成28年度より、CLTなどの新たな木質素材を活用できる建築士等を育成するために、大分県は、木造マイスター育成事業を始めました。JIA 大分地域会は事業開始からこれまでその事務

〈登壇者〉

五十田博氏(京都大学教授)

青木謙治氏(東京大学教授)

岩前 篤氏(近畿大学教授)

司会等：三浦逸朗(JIA 大分地域会)、他

局を務め、お手伝いをしてきました。今回のシンポジウムでは、これまで各分野で技術的なご助言をいただいていた、環境分野の近畿大学岩前篤先生、構造分野の京都大学五十田博先生、材料分野の東京大学青木謙治先生をお招きし、今後の中大規模木造設計に取り組むにあたり、ご意見をいただき参加者と一緒に議論しました。

住宅(3階建て・事務所兼住宅・延床面積約120㎡、1階RC造、2～3階木造)と非住宅(2階建て・店舗・延床面積約158㎡、木造)の事例を見ながら、それぞれについて各先生から、重要なポイントや改良点など、具体的な解説やアドバイスをいただきました。

表面上の知識だけではなく、実践的な技術蓄積を行い、木材の特質にあった設計を心掛けることが重要である、また、お互いの技術情報を共有することで、より良い木造建築を目指すことが大事であると認識できた有意義な意見交換の場となりました。(三浦逸朗)



会場の様子



壇上の青木氏、岩前氏、司会の三浦氏(右から)
五十田氏はオンラインで参加された

メインシンポジウム

シンポジウム 6 建築の未来Ⅲ「講演会〈Open-ended Architecture〉×クロストーク」

日時：11月29日(金) 14:00～17:00

会場：ビーコンプラザコンベンションホール

〈基調講演〉

重松象平氏(建築家／OMAパートナーおよびニューヨーク事務所代表／九州大学大学院人間環境学研究院教授)

■基調講演

建築家重松象平氏が「Open-ended Architecture」をテーマに建築と都市の今後の在り方について語りました。

重松氏は九州大学工学部建築学科を卒業後、1998年からレム・コールハースの事務所OMAに所属し北京で「中央電視台本部ビル」のプロジェクトを29歳にして担当しました。

最近では限定しない建築に興味を持っていると語り、「虎ノ門ヒルズステーションタワー」ではアクティビティーバンド、都市の軸線を意識し、その軸線上に人々の活動が集まるような象徴的な場所を目指し、超高層タワーが孤立してしまわないように、地下鉄や道路などの都市の広域ネットワーク、周辺のパブリックスペースとのつながりも強く意識したと述べました。



重松象平氏の基調講演

〈クロストーク〉

モデレーター：末廣香織(建築家／九州大学大学院教授／NKS2アーキテクツ共同主宰)

パネリスト：重松象平氏

末光弘和氏(建築家／九州大学大学院准教授／SUEP. 主宰)

石山友美氏(映画監督／秋田公立美術大学准教授)

最後に限定されていない空間を建築家として見つけていくべきで、都市がここまで制御されてくると、建築が都市的な部分を残していくべきではないかと話しました。

■クロストーク

重松象平氏、モデレーター末廣香織氏、パネリスト末光弘和氏、石山友美氏の4名がそれぞれ自己紹介を兼ねた講演を行い、石山友美氏の建築家とは違った目線でのトークと、「建築の未来」を語らう建築家のクロストークをとってもわかりやすくモデレーターの末廣香織氏が盛り上げた内容で、大会のテーマにふさわしいシンポジウムで会場は大盛況でした。(田中健一郎、三迫靖史)



クロストーク 左から末廣香織氏、重松象平氏、石山友美氏、末光弘和氏

大会式典

日時：11月29日(金) 13:00～13:50

会場：ビーコンプラザコンベンションホール

大会式典は、国内から古谷誠章日本建築士会連合会会長以下16名、海外からはAHMAD Saifuddin アジア建築家評議会会長以下12名の合計30名の来賓をお迎えし、川津大会実行委員長の開会宣言で始まりしました。松山大会委員長が、「『建築の未来』は、一人ひとりの建築家が描くビジョンから始まります。そしてそのビジョンが結集するとき、私たちは社会に、より良い変化をもたらす力を得ることが出来ます。本大会がその第一歩となり、新しい建築の未来を紡ぐ場となることを心より祈念します」と開会のことばを述べました。

続いて主催者を代表して佐藤尚巳会長が挨拶を行いました。

来賓祝辞は、国土交通省住宅局官房審議官の宿本尚吾様と

別府市長長野恭様から、そしてビデオメッセージにてUIAのGONTHIER Regina会長から賜りました。

また、今年度の6月26日の総会で六鹿正治様、豊島守様、南條洋雄様、森暢郎様、山城東雄様、DOWDELL Kimberly様、SUKHYANGA Asac様、KIM Jaerok様、HAN Young Keun様の国内5名、海外4名の合計9名の方が名誉会員となられました。佐藤会長がお一人ずつ紹介し、ご欠席のDOWDELL様、HAN様を除く皆様に名誉会員証を授与され、記念撮影を行いました。続いて、正会員の中から特に本会に貢献された、進藤勝人様、市村宏文様、中澤克秀様、萬野光雄様、大石雅弘様、本庄正之様の6名の方にフェロー会員証の授与式を取り行い、代表で本庄様に佐藤会長からフェロー会員証とバッジが授与されました。

最後に閉会の辞と参加者と関係者の皆様に感謝の挨拶を佐々木九州支部長が述べられ、大会式典は滞りなく終了しました。

(作田耕一郎)



国土交通省住宅局官房審議官
宿本尚吾氏のご挨拶



長野恭別府市長のご挨拶



大会式典の様子

**別府温泉街探索 まちあるき・まちづくりワークショップ
まち歩き 別府の「たから」と「あら」を考え、提案しよう！**

日時：11月28日(木) 10:20～13:00

会場：別府市内～ビーコンプラザ1F フィルハーモニアホール ホワイエ

参加者：27名

今年のサブテーマは、「共同湯巡くらすように旅する」。事前のマンスリー企画で、栗生はるかさんに共同浴場を主題にした街づくりの活動について、別府市役所の籠田課長さんに別府温泉の歴史と特徴についてレクチャーをしていただき、皆で広く予習をして臨みました。

また当日は、地元大分で広く街づくりをされている、大分大学の姫野由香先生に講師を務めていただきました。別府市は駅を中心に、東北、南東、北西、南西の4エリアから成り、参加者は4チームに分かれてそれぞれ担当し、駅からWS会場となるビーコンプラザまで約1時間かけて歩きながら道中に溢れるさまざまな「たから」と「あら」を拾い上げていきました。11:40から大会受付横のビーコンプラザ・フィルハーモニアホール横のホワイエ空間を利用してWSが始まりました。各チームは集めて来たネタを仕分けし、特徴を炙り出してまとめるシートA、それらを活かしたり、問題解決を提案したりするシートBを作成。12:40からの発表会では各チームが発表し、講師の姫野先生と別府市役所籠田課長さんに講評していただきました。完成品は別府市に寄贈されました。(松島逸人)



別府駅に集合



WS会場で姫野先生の説明を受ける

JIA+大光電機株式会社

建築家のあかりコンペ2024二次審査・表彰式

日時：11月28日(木) 14:30～16:30

会場：ビーコンプラザ3F 小会議室32

審査委員長：赤松佳珠子(法政大学デザイン工学部建築学科教授/Cat)

審査員：原田麻魚(MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO) 須部恭浩(三菱地所設計) 東海林弘靖(LIGHTDESIGN INC.) 村西貴洋(大光電機)

毎年JIAと大光電機の共同主催で開催される「建築家のあかりコンペ」二次審査および表彰式。建築家大会での展示・公開二次審査が恒例となっており、節目となる第15回目が本大会で開催されました。今回のテーマは「ときめくあかり」。一次審査への応募は49名、そのうち5名が二次審査に進みました。残念ながら1名は録画によるビデオプレゼンとなったものの二次審査には4名の方が来場されました。一次審査はA2判1枚でのプレゼン、二次審査ではモックアップも登場。モックアップがあることで一次のプレゼンシートから印象がガラリと変わり、審査員の方も意外性をもって受け入れていた印象でした。プレゼン案は単なる照明ではなく、各々の「ときめき」が表現されていました。

また、審査員の皆さんが多様な方々で実務者でもあることから、審査をしているというより製品化に向けて皆でワイワイと意見を出し合うような雰囲気となり、観覧者も入れ替わりながら立ち見も出て、会場は大いに盛り上がりました。(吉永啓)

最優秀賞：安藤良和「Hotarubi(ホタルビ)」

優秀賞：山本竜也「雪月-shizuku-」

佳作：岩松英里子「ぼつぼつ」、安藤友輔「子どもたちの笑顔」、大塚史奈「菜light(しおりライト)」



名誉会員の集い

日時：11月29日(金) 17:30～18:00

会場：杉乃井ホール4F 研修室A

参加者：28名

大会2日目レセプションパーティーの前に、杉乃井ホテルにて、2024年度新たにJIA名誉会員になられた豊嶋守氏、南條洋雄氏、森暢郎氏、山城東雄氏、六鹿正治氏、SUKHYANGA Asae氏(タイ)、KIM Jaerok氏(韓国)と、既に名誉会員になられている方々との交流を図る「名誉会員の集い」が行われました。佐藤会長、渡邊副会長、筒井専務理事、松山大会委員長、佐々木九州支部長が出席し、佐藤会長のご挨拶のあと、各名誉会員の皆様からもご挨拶をいただきました。会場ではワインを片手にJIAの思い出やこれまでの活動について語り合い、終始和やかな雰囲気の中、交流を深める貴重なひとときとなりました。(佐々木寿久)



大会式典での名誉会員授与式



会場の様子

国際委員会

International Presidents' Forum

日時：11月29日(金) 10:00～12:00

会場：ビーコンプラザ3階小会議室31 参加者：33名

JIA建築家大会で例年開催されるIPF(International Presidents' Forum/国際会長会議)は、JIAの提携協会であるAIA(アメリカ建築家協会)、ASA(タイ王立建築家協会)、KIRA(大韓建築士協会)、KIA(韓国建築家協会)および関係協会の会長・代表者を招いてパネルディスカッション等を行う国際交流イベントです。

別府大会のIPFでは提携四団体に加え、ARCASIA(アジア建築家評議会)、SIA(シンガポール建築家協会)、AIA Japan(アメリカ建築家協会日本支部)からも会長を招待し、「建築家の調達方法」をテーマに各国公共建築における建築家の選定方法や関連する法律等に関するプレゼンテーション、意見交換が行われました。各協会の登壇者から最低価格入札を禁止・制限する規制や、環境および歴史保存ポリシーの維持、地域コミュニティへの関与を求める事例等、日本国内においても参考になる制度の紹介がなされました。今回は会議テーマが実務・事務的であり、建築を紹介するビジュアルがほとんどないイベントであるにもかかわらず、国際委員会関係者以外の会員の方々にも聴講いただき、今後私たちが取り組むべき課題に対する関心の高さをうかがうことができました。海外からのゲスト対応としてIPFのほか、開催地ならではの「別府温泉地獄めぐりミニツアー」を企画し、九州別府の方々どのようにして火山と地熱のエネルギーを活用し豊かな生活に変換しているのか、知恵と工夫を体感いただけたのではないのでしょうか。

最後に、大会運営ならびに参加協力いただいた全ての方々に深く感謝を申し上げます。(水本浩二)



ウェルカムパーティー

日時：11月28日(木) 17:00～19:00

会場：ビーコンプラザ3F 国際会議室

磯崎新氏設計のビーコンプラザの3F国際会議室にてウェルカムパーティーを開催しました。参加者は337名と定員を大きく超えての参加があり、人数の関係で会場は同フロアの2会場に分かれていましたが、盛大な盛り上がりを見せていました。

パーティーは、松山大会委員長による乾杯挨拶にて始まり、遅れて参加する参加者が集まった段階で、佐藤会長による挨拶がありました。

会場外では、九州支部会員による九州各地の地酒を振る舞う場があり、各地のお酒を堪能しながら会員間で交流する姿が見られました。パーティーの終盤では、全国各地で活躍するバンカヨコ率いるチームによるマジックショーも催され、会場はショーによる驚きと歓喜の声

で溢れていました。

盛大な盛り上がりを見せたパーティーは、「建築の未来」をテーマとした大会の明るい未来を予想させる開幕にふさわしい大盛況の場となりました。(林田直樹)



会場の様子



マジックショー

レセプションパーティー

日時：11月29日(金) 18:00～20:00

会場：杉乃井ホテル・スギノイホール ひかり

レセプションパーティーは、大会式典当日の11月29日、18時より、「大分の迎賓館」をコンセプトに作られた杉乃井ホテルのスギノイホールで執り行われました。総勢431名もの参加者が出席し、大きな盛り上がりを見せました。ビュッフェが有名な杉乃井ホテルの料理が評判通り美味しかったと、参加者から数多くの声をいただきました。パーティーは、九州支部の佐々木支部長の挨拶で始まり、佐藤会長挨拶、アルカジア会長のAHMAD Saifuddin会長の挨拶、松山大会委員長の挨拶後に、大分県知事の佐藤県知事からもご挨拶をいただきました。乾杯は、日本建築士会連合会会長の古谷会長により執り行われました。

乾杯後は、地元大分の食材を使用した料理と、開放感溢れる空間で十分な懇談の時間を確保し、各会員間の交流が密にできる時間となりました。

最後は川津実行委員長にて閉会の挨拶後、全員による写真撮影を行い閉会となりました。(林田直樹)



参加者が集まって記念撮影

JIA バンドパーティー 2024 @別府

日時：11月28日(木) 20:00～23:00

会場：カッパーレイブンス (Copper Ravens)

別府の温泉街の路地裏にひっそりと佇むライブハウス「カッパーレイブンス」。昭和の妖しげな雰囲気が漂い、ネオンが灯り始めるころ、会場には多くの音楽好きが集まり、熱気が満ち始めました。20時よりライブがスタートし、トップバッターは“尚巳ちゃんと仲間達”による「BOSAバンド」。佐藤会長のサクソも響き渡り、その音色に聞き惚れました。続いて、東北・沖縄支部をはじめとする混成バンド「ツーホ・クシーバ・チャンプルー」がJIA音頭を熱唱し、会場のボルテージを一気に引き上げました。さらに、70年代ロックサウンドを大音響で響かせた「すご〜いバンド」、そしてJIAバンド文化の先

駆けである「ノッキン オン 四国」が会場を更に盛り上げる圧巻のステージを披露しました。前回の常滑大会で雨天中止となった無念の3バンドの音が鳴り響くJIAバンドパーティーとなりました。終盤ではサプライズで松山大会委員長の誕生日を祝い、会場は温かい雰囲気に包まれました。ラストナンバーの《勝手にしやがれ》では出演者と70名の観客が一体となり、大盛り上がりのフィナーレ。音楽を通じてJIAメンバーの結束がより深まる、心に残る熱いひとときとなりました。(有吉兼次)



雨天中止となった前回の無念を晴らしたJIAバンド

展示

日時：11月28日(木)・29日(金)

(「まちと建築展」は11月2日(土)～11月29日(金))

会場：ビーコンプラザ1階

ビーコンプラザ1階でさまざまな展示が行われました。メインエントランス・受付からも近く、多くの人が訪れました。



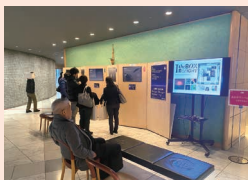
第1回九州建築新人賞受賞作品展



九州支部地域会展



まちと建築展



あかりコンペ展



組織設計事務所展



協力会展



展示コーナー内のカフェショップ



エントランス風景

■エクスカーショ

エクスカーショ S

●特急「A列車で行こう」To 湯布院

JR九州の特別貸切列車で行く日帰り湯布院散策ツアー

日時：11月28日(木) 11:00～17:00

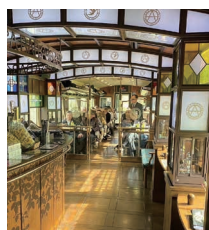
参加者：72名

別府駅出発 → JR由布院駅到着 → 湯布院自由散策(2時間) → JR由布院駅出発 → 別府駅 → ビーコンプラザ到着

特急「A列車で行こう」とは、JR九州が熊本駅～三角駅間を鹿児島本線・三角線経由で運行する臨時特急列車ですが、今回のJIA建築家大会2024別府エクスカーショ Sでは、この特別な列車を貸し切り、通常は運行されていない「別府～由布院」間を特別運行しました。11月28日、澄み渡る秋晴れのもと、参加者は10時30分に別府駅に集合。11時00分に総勢72名を乗せた列車が由布院へと出発しました。車内では「四季の味 ぎんなん」の特製弁当が配布され、大分の秋の味覚を存分に味わうことができ、参加者からも大変好評をいただきました。由布院到着後は、コミコアートミュージアムや由布院駅周辺を約2時間自由散策。玉の湯旅館では、設計された鮎川氏の取り計らいで、建物内を開放していただき、湯布院の自然と建築の密接な関係を堪能しました。各所でゆったりとした時間を過ごした後、再びA列車に乗車し、別府へと帰路につきました。移動中は、車窓から美しい紅葉を眺めることができ、特別運行ならではの魅力を満喫する貴重な体験となりました。



特急・A列車



特急・A列車の車内



湯布院の街

エクスカーショ 2

●磯崎新建築のいま 北九州編

北九州市内の磯崎建築を見学する貸切バスツアー

日時：11月30日(土) 8:30～19:30

参加者：25名

大分駅出発 → 北九州市立美術館 → 北九州市立中央図書館 → 北九州国際会議場・西日本総合展示場 → 小倉駅にて1次解散 → 大分駅にて2次解散

本編は、磯崎氏の事務所に在籍されていた西岡弘会員のアテンドのもと、4作品を巡りました。

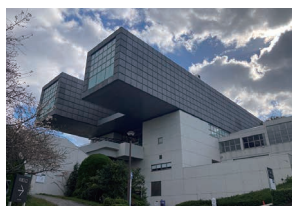
まずは「北九州市立美術館」を見学しました。裏話として、磯崎氏は、外壁と軒裏を同素材で考えていたそうですが、当時の担当者が別素材にしまったため、激怒されたらしいです。ただ、時もう既に遅しということで、軒裏はスパンドレルのままになっています。

その後、再建が進む小倉の旦過市場付近で昼食休憩を取りました。

次に「北九州市立中央図書館 文学館」を見学し、「北九州国際会議場・西日本総合展示場」を訪れました。「国際会議場」は貸切の催しのため、館内は見れず外観のみの見学となりました。

「西日本総合展示場」では、なぜ屋根に断熱を施していないか等、面白いお話をいただき、アテンドした我々も楽しいひと時となりました。

(塩釜直人、高濱和久)



北九州市立美術館



北九州市立中央図書館



北九州国際会議場・西日本総合展示場

エクスカーショ 1

●磯崎新建築のいま 大分編

大分市内の磯崎建築を見学する貸切バスツアー

日時：11月30日(土) 9:00～17:30

参加者：23名

大分駅出発 → 大分県立図書館 → アートプラザ → 岩田学園 → 大分駅解散

大分市に点在する磯崎建築を見学する大分編では、日本文理大学建築学科教授の島岡成治先生の説明のもと3作品を巡りました。

「大分県立図書館」では天井にコンクリート製の大きな円盤が取り付くエントランスホール、百柱の間と呼ばれる閲覧室をはじめ、バックヤードや屋上を見学しました。

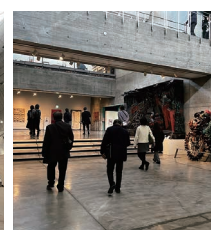
次に訪れたのは、「芸術文化複合施設アートプラザ(旧大分県立大分図書館)」です。ここでは現在の状況とは違う当時の写真をスライドで説明の上、60年代ホールや磯崎新建築展示室、バックヤードを見学しました。昼食は参加者に大分の郷土料理である「りゅうきゅう」と「とり天」を堪能していただきました。

最後に訪れたのは「学校法人岩田学園」です。現存最古の作品という1号館と2号館は校舎として現在も使われ、学園理事に説明をいただき当時の図面を閲覧の上学園内全体を見学。教室や体育館、学生寮食堂の内部まで見学でき、成長する磯崎建築の軌跡を満喫していただけたのではないかと思います。

(一宮嘉宏、西村友吾、高橋大介)



大分県立図書館



アートプラザ



岩田学園

エクスカーショ 3

●熊本震災遺構巡り+文化財修復塾ツアー

阿蘇神社、震災ミュージアム、熊本城等を見学する貸切バスツアー

日時：11月30日(土) 8:00～20:00

参加者：20名

大分駅出発 → 阿蘇神社 → 京都大学火山研究センター → 熊本地震震災ミュージアム → 熊本城 → 熊本城で1次解散 → 熊本空港で2次解散 → 大分駅で3次解散

参加者20名スタッフ5名のうち、修復塾受講者および修了者はスタッフを含め12名。バスの中では鯉坂徹さんに解説をお願いし、8時間の修復塾ツアー(現地講習)となりました。また、佐藤尚已会長も参加されました。

「阿蘇神社」熊本地震で倒壊した国指定重要文化財「阿蘇神社楼門」を見学。新たに鉄骨フレームを挿入し、耐震補強を行っていました。破壊された部分に新木材が継木され、補修箇所が判別できました。



「京都大学火山研究センター」地滑りによる被害 阿蘇神社

が大きかった同センター(国登録有形文化財)はジャッキアップによって杭を設置し、基礎も大改修を施していますが、外観は地震前と大きな変化はありませんでした。窓枠や暖炉、階段等見るべき箇所は多く感じました。

「震災ミュージアム KIOKU」o+hによる新しい展示棟は雄大な阿蘇の風景を曲面の屋根で切り取り、ひと筆書きのような平面で構成しています。そして旧東海大学阿蘇校舎の震災遺構の建物展示。地表に現れた断層の保存展示も見ることができます。

「熊本城宇土櫓」国重要文化財である宇土櫓の解体作業を見学しました。1927年に解体修理が行われ、約100年ぶり修復となります。壁と屋根瓦を撤去した軸組だけの状態で非常に面白い経験でした。今後どのような復原を行うのか興味深く感じました。

(長野聖二、田島正陽)



熊本城宇土櫓